

「日本ベッドだから！」

～「独自性」を追求し、進化し続ける高品質マットレス～

(株) 家具の望月 〒420-0869 静岡市葵区安倍町 30 TEL 054-272-1000 <http://www.sleepstudio.jp>

工場見学 in 茨城

日本ベッドは、当店のコイルマット1番手！
その確かな技術を見てみたい！
作っている方にお会いしたい！

日本ベッド製造(株) 茨城工場 「マットレスの良さはスプリングで決まる」

平成 30 年 10 月 17 日(水)、スタッフ 6 名で、茨城県常総市の「日本ベッド茨城工場」見学に行ってきました。つくばエクスプレス 守谷駅から車で 30 分。森に囲まれた工場は、敷地がとても広く、動物や鳥たちも時々現れるそうです。栗の木もあって、かわいい実が落ちていました。



すぐに工場内を案内して頂きました。始めは、側生地や詰め物の部門です。各パーツの製造工程毎に、日本ベッドのこだわりがあり、そのこだわりを実現するための機械は外注することができず、試行錯誤を重ねて独自で製造したものを使用していることに、まず驚きました。「日本ベッドにしかありません」がたくさんあるのです。例えば……

側生地の表は普通の縫い目なのに、裏の縫い目は刺繍のチェーンステッチになるような機械裁断した側生地を 2 階に上げるベルトコンベア、テープエッジを縫う時に布地を決まった方向に回転させるローラー、ベンチレーター的位置を揃えて縫うため工夫された機械、などなど……

見学に行く前に想像していたのとは違い、工場？というよりは、職人の手作り工房のようなイメージで、細部に渡り、妥協を許さないという姿勢、そして必ず人の手が入ることで、「こだわりを実現」していました。

工場内はお掃除が行き届いていて、とてもきれいで、安心感がありました。

この部門だけでも、感心することばかりでしたが、この後のスプリング部門では、さらに驚きました。

「芯(スプリング)がしっかりしていなければ、いくら着飾ってもダメだ！」

「芯(スプリング)がしっかりしていなければ、お客様が眠るための製品としては落第だ！」

これが、日本ベッド社が、ずっと曲げない信念です。

ポケットコイルのスプリングを作るコイルマシンもゼロから作ったそうで、成形時の熱処理も、独自の技術で、残留応力によりコイルが広がったり、縮んだりしないような加工を施していました。

主力のシルキーポケットシリーズは、ポケットコイルをあえてハニカムのように配列することで、睡眠中の体の動きにきめ細かくしなやかに対応することができますが、ここは、機械に任せず、人の目でチェックしながら並べていました。そして、他メーカーではやっていないのが、側生地とコイルをくっつけて、ズレをなくす技術。これにより、耐久性は格段に上がったそうです。うちのマットレスはちょっとやそっとでは壊れません！という自信！

見えない部分こそ、上質に！というのが日本ベッドの心意気だと思いました。

私たちは、側生地の無い、コイルだけのマットレスに横になってみました。なんと！これだけで、十分に気持ちがいいのです！線径（針金の太さ）が 1.2～1.4mm のシルキーポケットは、他社に比べて細くしなやかなので、コイルの繊細な動きがしっかり伝わるマットだと、改めて納得しました。

時間をかけて行う厳しい独自のチェック工程も、長期の耐久性という日本ベッドの「あたりまえ」を支えていると思いました。

最後に、黒坂顧問と倉持工場長から、マットレス開発秘話などを伺い、お二人のマットレス作りへの情熱を感じ、「人がもの作りの基本である！」ということと、あらためて考えさせられました。どうしてそこまでこだわるのですか？という質問に、「日本ベッドだから！」と答えた黒坂顧問の言葉に、こだわりのマットレスを作りあげてきた誇りと自信、全てが集約されていると思いました。

